



Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 平沢安政教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2018, 44, p. 351-355
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68308
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【定年退職教授の履歴および主要業績】

平 沢 安 政 教授

ひら さわ やす まさ
平 沢 安 政 教授

1978 年 3 月 大阪大学人間科学部卒業
 1978 年 4 月 大阪府学校教員（～ 1982 年 7 月）
 1981 年 9 月 ハーバード大学教育大学院修士課程入学（フルブライト奨学生）
 1982 年 6 月 同上修了
 1982 年 9 月 ハーバード大学教育大学院博士課程進学
 1984 年 6 月 同上単位取得退学 (Ph.D. candidate)
 1989 年 6 月 ハーバード大学教育大学院にて博士号 (Ph.D.) 取得
 1992 年 4 月 大阪大学人間科学部助教授
 1996 年 4 月 大阪大学人間科学部教授
 2000 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科教授
 2017 年 4 月 大阪大学名誉教授

平沢安政教授は、1978 年 3 月大阪大学人間科学部を卒業後、大阪府学校教員在職中の 1981 年 9 月にフルブライト奨学生としてハーバード大学教育大学院修士課程に入学した。1982 年 6 月に同課程の修士号 (Ed.M.) を取得し、同年 7 月大阪府学校教員を退職したのち、同年 9 月同大学院博士課程に進学し、1984 年 6 月同課程単位取得 (Ed.D. candidate)、1989 年 6 月には同大学院にて博士号 (Ph.D.) を取得した。1984 年日本に帰国してからは、国際会議同時通訳者として活躍した。1992 年 4 月大阪大学人間科学部助教授に採用され、1996 年 4 月同学部教授に昇任し、2000 年 4 月大学院重点化に伴い、大学院人間科学研究科教授に配置換えとなった。2012 年 5 月から 2014 年 3 月までは大学院人間科学研究科長・人間科学部長として研究科及び学部の発展に尽力し、2017 年 3 月 31 日限りで本学を退職するものである。

同教授は、大阪大学人間科学部在籍時から同和教育や人権教育に関心をもち、その実践を目指して大阪府学校教員となり、学校現場で生徒たちと向き合いながら大きな成果を挙げていたが、学校現場でのマイノリティ問題を学術的に研究する志をもってハーバード大学に留学した。

ハーバード大学では、アメリカの多文化教育 (multicultural education) の理論や実践に影響を受けつつ、日本の同和教育の進展について研究をおこなった。大阪大学に採用後は、アメリカ留学で得た新しい理論やグローバルな視野を活かし、1994 年に初の単著である『アメリカの多文化教育に学ぶ』(明治図書) を発表し、1996 年にはアメリカの多文化教育の泰斗であるジェームズ・A・バンクスの主著の翻訳『多文化教育 - 新しい時代の学校づくり』(サイマル出版) を世に出し、日本の教育理論や実践の中に、多文化教育を紹介することによって、日本における多文化教育研究の第一人者となった。

その後も、同教授は高い見識と英語力によって、欧米の最先端の研究と日本のマイノリティ

研究や多文化教育、人権教育研究を結びつける大きな役割を果たし続けてきたことは、英語論文や高い評価を得ている翻訳の多さから明らかである。

同教授の研究上の功績の特徴は、海外の多文化教育やマイノリティ研究に関する深い学識をもって、日本の歴史や現状に即した形で国内の差別問題を解決すべく、研究に取り組んできた点にある。被差別部落や在日コリアンによる識字運動の歴史や現状について、パウロ・フレイレの古典的名著の理論や、80年代末から台頭したニュー・リテラシー理論と結びつけながら、新たな光をあてた研究を展開した。

また、「人権文化の構築」という視点から同和教育の普遍性・先駆性を明らかにし、道徳教育、キャリア教育、市民性教育等と結びつけた人権教育の理論と実践について、生涯教育学においてオリジナリティあふれる研究を展開した。

これらの研究の成果は、社会貢献活動を通して、国及び地方公共団体の人権施策・教育施策や民間教育研究運動に大きな影響を与えた。同教授は、国や地方公共団体の各種審議会委員を務めるとともに、人権教育・多文化教育にかかわる講演活動や一般誌への執筆活動を精力的に行ってきた。特に重要なものは次の通りである。

まず国においては、文部科学省「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」委員を務め、第1次から第3次の「とりまとめ」の作成に尽力した。同教授なくして、文部科学省の人権教育の方針策定は十分な形で成しえなかったと述べても過言ではない。

さらに地方公共団体においては、大阪府社会教育委員会議長、大阪市社会教育委員会委員、奈良県人権施策協議会会長、箕面市立萱野中央人権文化センター運営委員会会長等を歴任し、大阪大学で実施されてきた社会教育主事講習の責任者を務めるなど、大阪府内外の社会教育・人権行政に多大な貢献を果たした。2006年12月には、箕面市から「人権・国際功労」の感謝状を贈られている。

学内では、2009年4月から2012年3月まで務めた教育・情報室員をはじめ、人権問題委員会委員長、国際交流員会委員、ファカルティ・ディベロップメント委員会委員など重要な役職を長年にわたり務めた。また、研究科内では、2001年及び2007年の5月から1年にわたり教育学系幹事教授を務め、2008年4月から2010年3月までは副研究科長、2012年5月から2014年3月までは研究科長・学部長として、発展的な組織改編に向けて、研究科・学部管理運営に尽力した。

特に、副研究科長及び研究科長在職時には、文部科学省主催の国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）による「学部英語コース（人間科学コース）」の設立や、博士課程教育リーディングプログラム事業による「大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラム」のプログラム担当・運営統括委員として尽力するなど、本学における教育の国際化に大きく貢献した。

以上のように同教授は、人間科学の学術研究と教育の発展、また大阪大学と大学院人間科学研究科・人間科学部の組織管理運営に尽力し、さらに社会貢献という点でも大きな功績を残した。

主 要 業 績

著書

1. 上杉孝實・平沢安政・松波めぐみ共編『人権教育総合年表-同和教育、国際理解教育から生涯教育まで』明石書店 2013
2. 牟田和恵, 平沢安政, 石田慎一郎編『競合するジャスティス-ローカリティ・伝統・ジェンダー』大阪大学出版会 2012
3. 平沢安政編『人権教育と市民力-「生きる力」をデザインする』解放出版社 2011
4. 平沢安政『解説と実践 人権教育のための世界プログラム』解放出版社 2005
5. 平沢安政『アメリカの多文化教育に学ぶ』明治図書 1994

他 28 冊

学位論文

Hirasawa, Yasumasa, “A Policy Study of Evolution of Dowa Education in Japan,” Ph.D. dissertation. Harvard University, 1989

学術論文

1. 平沢安政「未来共生学の構想と課題」『未来共生学』1: 51-79、2014
2. 平沢安政「人権教育と市民力：市民性教育をめぐる研究の成果と課題」『部落解放研究』200: 47-58、2014
3. 平沢安政「市民性教育としての人権教育について- OECD の『キー・コンピテンシー』を手がかりに-」『世界人権問題研究センター研究紀要』15: 107-132、2010
4. Hirasawa Y., “Pushing the Envelope: Expanding Multicultural Practices in Schools,” *Curriculum in Context* 32(1): 26-30, 2005

他 24 報

翻訳

1. 平沢安政訳『デマンドに応える学校 - 教育の社会的な需要と供給』（OECD 教育研究革新センター編著）明石書店 2007

他 8 冊